

News Letter



春の訪れを告げる シデコブシ



野山がまだ冬の装いに包まれているころ、枯れているかのような木の枝先いっぱいに、ある日突然咲き誇る白い花。コブシやモクレンはウメやサクラなどと共に春の訪れを告げる花の一つです。早春の晴れた日、雲一つない青空と白い花のコントラストは鮮やかで清々しいものです。

モクレン属は、日本には6種が自生しています。その中でホオノキ、オオヤマレンゲ、コブシ、タムシバは広い分布域を持っていますが、シデコブシ、コブシモドキの分布域はそれぞれ東海地方、四国地方に限られています。（ちなみに街路樹や庭木で目にする大ぶりの花の多くは中国原産のモクレンやハクモクレンなどです。）

シデコブシは、コブシに似た落葉小高木または低木で、高さは5m程度になります。花は3月終わりから4月のはじめにかけて、葉が展開する前に開きます。直径は7～10cm、花被片は12～18枚ほどで、縁が多少波打ちます。この花被片の多さと形状が、コブシとの一番の違いです。名前の由来もこの花形により、開きかけの花弁が神社で用いられる稲妻形の「四手」に似ていることによります。英名では、星のように咲くコブシ（Star Magnolia）と呼ばれています。花色は個



体差があり、純白から濃いピンクまで様々です。

シデコブシが生育する東海地方には東海丘陵要素（または周伊勢湾要素）と呼ばれる一群の植物が生育し

ています。東海丘陵要素とは、愛知・岐阜・三重にまたがる伊勢湾を取り囲む周伊勢湾地域の低湿地を中心として生育する固有、準固有または隔離分布する植物のことを言い、ハナノキ、ヒトツバタゴ、ミカワバイケイソウ、シラタマホシクサ等をはじめとして、シデコブシもその一種に数えられます。これらの地域には土岐砂礫層によって形成さ

れた土岐面と、その下に水を通しにくい粘土層があります。そのため、斜面に土岐砂礫層が露出していると、そこから地下水がしみ出して小さい湿地ができるのです。これらの湿地は一般に泥炭の堆積がなく、水はごく貧栄養で比較的低温、弱～強酸性で、この湿地が東海丘陵要素の主な生育環境となっています。

シデコブシの生育環境はこれらの中でも日当たりがよく、水の流れのある湿地や谷底面の沢筋に限られていますが、そこでの個体数は多いようです。ただ残念ながら、最近ではゴルフ場や宅地造成により消滅してしまった産地も多いとのこと。寒々とした枯れ木の間に、白やピンクの星のような花を咲かせて春を告げる可憐な姿をいつまでも見続けられると良いですね。

（本社自然環境調査室・佐藤佳子）

目次

エッセイ	春の訪れを告げるシデコブシ	1
調査	両生類と爬虫類の調査	2
Report	近自然工学講演会 報告	4

研究紹介	埋土種子による植生復元・緑化	6
	ある日のフィールドノートから 北の現場から	8